

国産大豆の需給動向と生消提携の新展開

- 大豆畑トラスト運動を事例に -

北海道大学農学研究科 久野秀二

1. はじめに

大豆への視点 { 日本型食生活の必需品 身近な存在 but 自給率の極端な低さ → 食料主権論
農産物輸出大国にとっての戦略作物 用途の広さ *thehiddencommodity*
アグリビジネスにとっての戦略商品 加工 ← 流通 ← 育種 *soya complex*

大豆をめぐる動き - { 「麦大豆品質向上定着特別対策事業」1999 ~ 2002
「大豆研究会」農水省が設置 1998.12
「大豆基本政策研究会」J A グループが設置 1999.4
「水田を中心とした土地利用型農業の活性化の基本方向」1999.7
「新たな大豆政策」の策定へ

← → 生産者、消費者、業者、地域レベルでも動きが活発化

2. 大豆の需給動向

- (1) 全体状況
- (2) 食品用途の自給率 製油用途との違い
- (3) 国産大豆の競争力 価格・安定供給・ロット

3. 大豆の生産・流通構造

- (1) 作付面積の推移
- (2) 米生産調整の影響 不安定な生産基盤と手厚い助成金
- (3) 主な流通ルート 交付金対象大豆と交付金対象外大豆
- (4) 交付金制度のしくみ
- (5) 交付金制度の問題と見直しの動き 市場評価の反映と自主流通大豆の拡大

4. 国産大豆需要をとりまく状況

- (1) 消費者および実需者からのニーズの高まり
- (2) 遺伝子組み換え大豆の開発・商品化動向
- (3) 国産大豆の新商品化と地場産大豆による地域振興：いくつかの事例

5. 草の根からの取り組み：大豆畑トラスト運動を事例に

- (1) 大豆畑トラスト運動とは
- (2) 生産者アンケートの結果(中間集計)
- (3) トラスト運動と「生消提携の“新”展開」

6. おわりに

国の農政は生産者・消費者の声に応えることができるのか？